

2023 年度:こども園自己評価の報告書

西丘こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・園内研究テーマを引き続き、『違いを認め合い 共に育つ 心豊かな子ども達に～子どもの人権が主体となる活動を通して』とし、人権保育の理念を再認識しながら、具体的な活動保障について学ぶ。 ・保育アドバイザー研修では子どもの発達に応じた遊びの保育環境や身近な素材などを使って五感を刺激し、自発的に遊びを広げていくことを学び、保育環境を工夫していった。大人自身がイメージ豊かに遊びを展開し、発見への感動に敏感になることが必要である。様々な観点から学び合う園内研究となった。
健康支援	・園児を対象とした保健指導を看護師が中心となって継続的に実施をし、健康安全指導・生活習慣・食育等に関する教育保育内容の充実を図った。 ・園児一人ひとりの健康状態を把握し、感染症予防においても感染状況をこまめに更新し、保護者とこまやかな連絡を取り合うことで、園生活を健康的に過ごすことにつながった。また保健だよりは毎月発行し、時節に応じた内容など、保護者が関心をもてるよう工夫をこらしている。
安全指導・危機管理	・毎月当番制による施設安全点検を実施し、必要に応じて修理・改善を行う。また、遊びや散歩、食物アレルギー等マニュアルに基づき安全保育の徹底を周知する。 ・災害（地震・火事等）に対する避難訓練は毎月実施し、不審者侵入に対する訓練も行った。1月には地震の訓練とともに園庭で炊き出しも行った。特に幼児クラスは防災について自分の身を守ることの必要性を考える機会を持つように取り組んだ。隣接している新千里消防署と連携を図り、年に一回は消防署立会いの下、避難訓練を実施している。 ・園外保育については、安全に様々な経験を重ねていけるよう下見をし、経路確認や指導内容を確認しながら取り組んでいる。
食育の推進	・自園給食のもと、給食の過程を五感で体感する“クッキング”の機会を設け、食への関心を深めるようにした。 ・全クラス菜園計画を立て、技能員と共に菜園ミーティングも実施しながら、クッキングを工夫して行った。 ・父親の育休取得の増加に伴い、父親が地域支援事業に参加する機会も多く見受けられるようになったため、パパ（もちろんママも）のための離乳食講座の機会も設けた。
子育て支援（在園児および地域）	・入園している保護者との信頼関係を築くためにも個人懇談・クラス懇談会・クラスだより・連絡ノート・配信アプリ等による発信、必要に応じて送迎の際に会話を積み重ね、相談対応にも応じてきた。 ・地域の親子のプレイルームや園庭利用は多く、園児との交流の場になっている。学年ごとに年齢別サークルや子育てサロンの担当制で交流を行っている。

インクルーシブ教育保育	・支援計画をもとに保護者と確認し合いながら、“違いを認め合うインクルーシブ教育保育”に努めてきた。どの子にとっても安心して過ごせる保育環境・また一人ひとりの育ちを保証し、互いに認め合う仲間づくりをどうしていくのか学び合い、園全体で考えていけるような機会を持つ。 ・就学先の小学校と連携を図り、切れ目のない支援を目指している。
職員の資質の向上	・アドバイザー研修や人権研修においては、自身の保育を振り返ることで保育の質に変革をもたらし、より多くの気づきが実践につながるような具体的な研修内容に努めた。 ・保護者アンケートの結果をもとに気になる項目に今後どう向き合うかなどクラスで話し合うなどして改善に努めた。 ・園内公開保育などを通して互いに学び合う機会を持ってきた。
幼保こ小中の連携・接続	・幼保こ小連絡会等において情報交換や意見交換を行った。『敬老の集い』など校区社協主催行事にも積極的に参加し、地域と共に存在するこども園としての発信を行った。 ・地域中学校とは CUL（職場体験）で交流を実施した。
評議員会	・評議員会では小学校長・主任児童委員 NPO 法人国際交流の会とよなか・学識経験者・高齢者施設長という子どもや地域の育成に関わる委員に出席いただく。公開保育や園行事を見ていただき、園が取り組む園内研究について報告をした。地域状況を報告しあう中で、地域のこども園だからこそ考えていく課題についても共有しあう場となった。
その他	・大阪府立千里青雲高校と、幼児教育履修生徒との交流を継続し、高校生の授業の一環として園児向けの遊びの報告をしてもらった。また、季節の植物学習に参加し、自然経験をさせていただく機会となった。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
環境ガイドラインを生かした保育実践	・毎年、環境ガイドラインの項目チェックを通して、各クラスが教育・保育を振り返り、子どもが主体となる保育について具体的な手立てや子どもにとっての保育環境を定期的に見直し、よりよい教育保育をめざしていく。
様々な価値観の中で、多様性について考える	・インクルーシブ保育や性、また家族の在り方など、当たり前という価値観を見直し、様々な視点や側面から物事をみていく必要性を職員で共有していく。また、保護者の子育てに対するしんどさを受け止めて、子どもの育ちと一緒に喜び合えるような支援についても、考えていく。

令和 6 年（2024 年）3 月 31 日

豊中市立 西丘こども園

園長名 住川 直美